

授業概要

この授業では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（「傾斜生産方式」）、③高度成長の過程と要因（設備投資、技術導入・技術革新、政府の役割、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際貿易、平和な国際環境）、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通じて、戦後日本経済の復興・成長過程を講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（講義内容、講義方法、評価方法、参考文献など）
第 2 回	アメリカの対日占領管理方式の特徴
第 3 回	戦後経済改革Ⅰ 農地改革
第 4 回	戦後経済改革Ⅱ 労働改革
第 5 回	戦後経済改革Ⅲ 財閥解体
第 6 回	「傾斜生産方式」と戦後復興
第 7 回	財閥から企業集団へ
第 8 回	中間テスト
第 9 回	技術導入と技術革新
第 10 回	高度経済成長と設備投資
第 11 回	高度経済成長期の産業政策
第 12 回	所得増と大衆消費市場の成立
第 13 回	オイルショックと高度経済成長の終焉
第 14 回	高度経済成長の負の遺産
第 15 回	日本経済のグローバル化
第 16 回	期末試験

到達目標

- 1、戦後改革の意義・影響、高度経済成長との関連を理解する。
- 2、日本の産業・企業が戦後混乱期から立ち直った歴史的経緯を理解する。
- 3、高度経済成長の過程・意義、および公害という負の遺産を理解する。

履修上の注意

無断欠席、遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。

予習・復習

- 1、指定された日本経済史の参考書は一冊を通読することが望ましい。
- 2、事後学習として配布資料およびノートをしっかりと読み返し、内容への理解を深めてください。

評価方法

期末試験（50%）、中間テスト（30%）、授業態度（20%）を総合して評価する。

テキスト

特に使用しない。講義内容に応じてプリントを配布し、参考書を適宜指示する。